

当院における摂食機能療法の現状と今後の課題について

若原千夏¹⁾ 井出晃子¹⁾ 坂啓子²⁾

【はじめに】

当院では2008年より摂食機能療法を実施し、普及のための勉強会が実施されてきた。2010年より摂食・嚥下障害看護認定看護師配置、2015年に言語聴覚士（以下S T）が増員され、より一層の摂食機能療法の充実を図っている。今回、摂食機能療法の現状調査・課題検討をしたので報告する。

【方 法】

病棟看護師170名に、摂食機能療法の実態調査（①摂食機能療法実施可能な職種、②医師・歯科医師の指示について、③必要訓練時間、④訓練内容、⑤要望）を実施。

【結果および考察】

①～③は摂食機能療法の理解度を調査したもので、①では、「看護師」を選択できた割合は100%であったが、全ての職種を正しく選択できたのは12%とわずかであった。（図1）これは、当院では看護師中心に摂食機能療法を実施していること、他職種連携が不十分であることが原因と考えた。②は、入職5年以上の職員の正答率は85%以上であったが、5年未満では77%とやや低かった。（図2）また、③では、5年目以上の正答率は約90%であったが、それ以外では80%に満たない結果であった。（図3）これらの結果より、5年未満の職員中心に摂食機能療法のルールが十分浸透していないことがわかった。

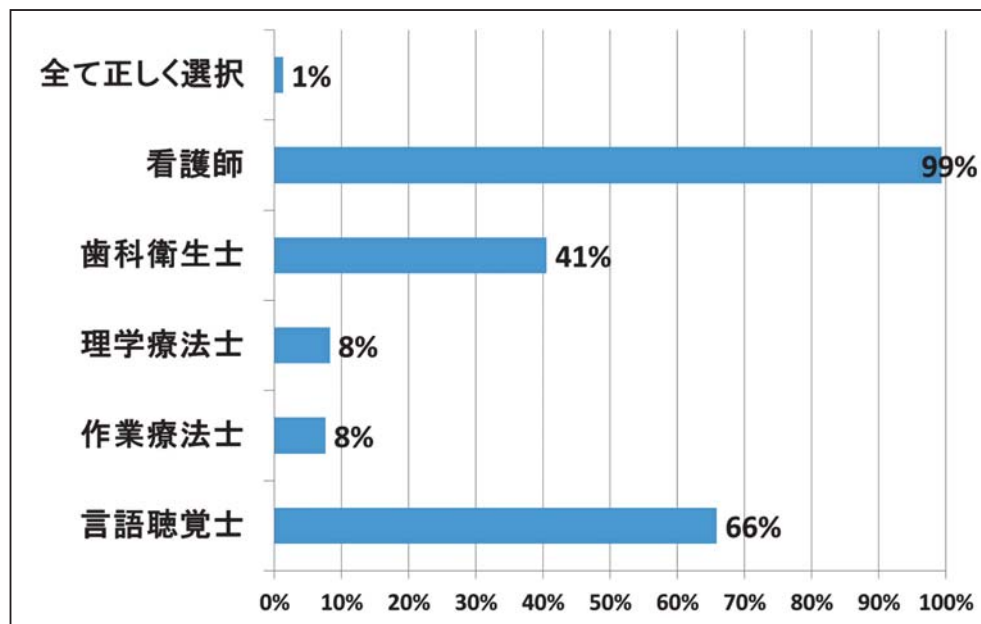


図1

1) 岐阜赤十字病院 リハビリテーション科

2) 岐阜赤十字病院 看護部

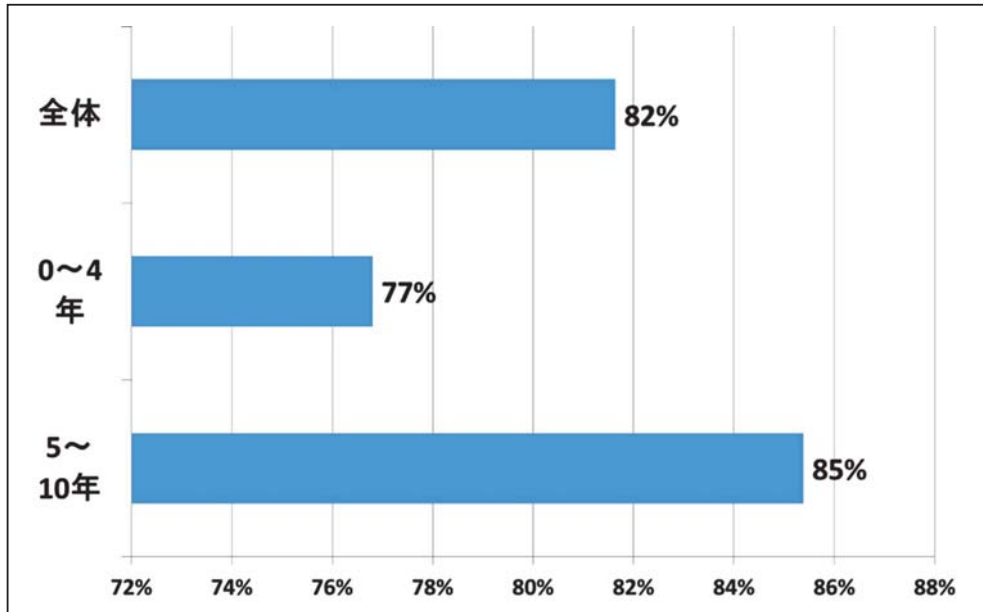


図 2

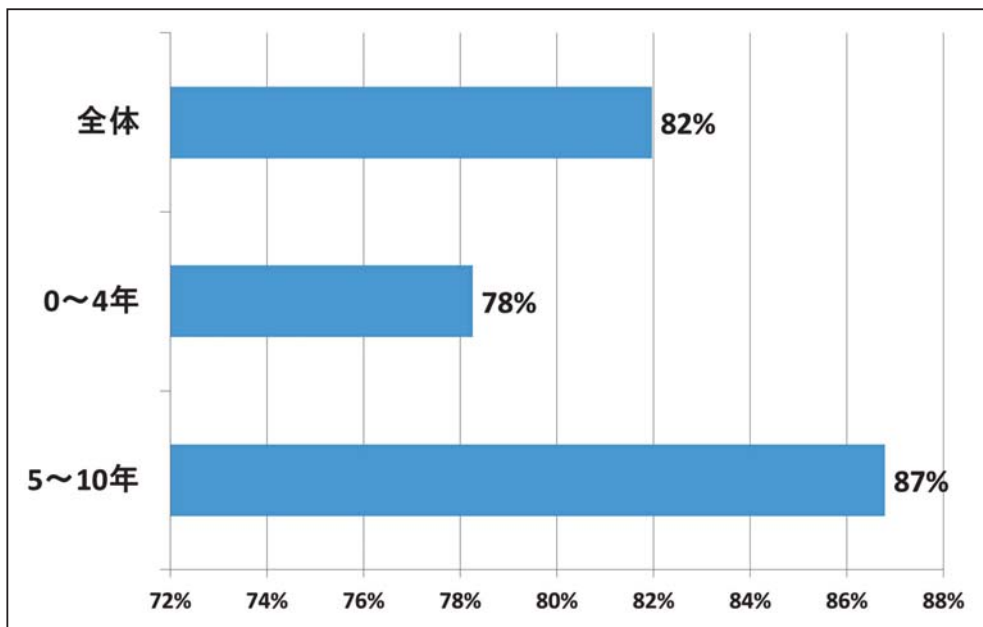


図 3

④では、一部で間接的嚥下訓練（以下間接訓練）が挙げたが、入職年数に関わらず、ほとんどの職員が食事介助や嚥下の確認といった直接的嚥下訓練（以下直接訓練）を挙げた。これは、看護師業務が多忙で、食事時以外に訓練時間がとれないことや、重度嚥下障害患者の訓練や間接訓練はS T中心で行っていること、さらに、これまでの院内勉強会の内容は直接訓練中心であったことが原因と考えた。しかし、⑤で間接

訓練について知りたい、直接訓練内容の確認をしたいとの意見もあった。今後勉強会の内容を再検討し、食前や口腔ケアの際に行える間接訓練の導入、認定看護師やS Tが連携し、直接訓練内容の再確認を行う必要があると考えられた。